《どうでもいい話、その602》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！ コロナも大分落ち着き、ボチボチ社会復活です。このところ寒さがきついですね。今の暖房機は、セントラルヒーティング、エアコン、床暖房などいろいろありますが、我が家の暖房は、ガスストーブとコタツです。コタツに入り、寝そべってテレビを見たり、新聞を読んだり、眠くなるとマクラを置いてうたた寝をします。コタツはゆったりとして本当にいい居心地です。そのコタツですが、私が子供の頃は掘りゴタツで床から一段下がり、火種は炭火でした。それからしばらくして炭の時代は終わりを告げ、熱源は電気になりました。ここからコタツは、改革と合理化の道を歩むことになったのです。まず、炭火の時は狭いとはいえ長としてその中央にデンと構えていたのに、急にヒーターと名前を変え天井裏への異動を命じられました。そして今まで居た場所は不要だと言われてとっぱわれ、コタツはどこにでも自由に働けることが可能になりました。それからは、働き方改革と構造改革、合理化の波は次から次に押しよせ、組織の体制や仕組みなどを抜本的に変革することによりシナジー効果が生まれ、コタツはついにテーブルに吸収合併されてしまったのです。

岩波より